

校務支援システムの開発、充実による教職員間 の情報の共有や業務の効率化を図る取組

～学校運営の改善、組織マネジメント力の向上に向けて～



虚空蔵谷川のソメイヨシノ



京都府京田辺市教育委員会
こども・学校サポート室

辻村 登喜男

 **京田辺市** ©-92-297
Kyotanabe City



- ・京都・大阪・奈良の3都市を結ぶ三角形の中心
- ・関西文化学術研究都市の北の玄関口
- ・一休禅師が晩年を過ごした土地
- ・人口 約70,800人





一休寺

<京田辺市人気スポットNO.1>



一休善哉の日

- 一年間の誓いの言葉を書く絵馬。
- 絵馬を奉納した後に善哉を食する。



参道



- 紅葉は京都市内より1週間ほど早い。
- 葉は大きく空気が澄んでいるためよくきれいに紅葉する。
- 夜には幻想的なライト・アップイベントも行われる。





大御堂観音寺

<二月堂竹送り>

竹送りとは

- 二月堂の「お水取り」に用いる真竹を京田辺の観音寺から二月堂まで、送り届ける行事。早朝に周囲20センチ、重さ100キロほどある
- 根付きの真竹を7本掘り起こし、観音寺で道中の安全を祈願して法要される。
- 竹には、寄進した団体の名前と祈願内容が墨で書かれる。





小学校:9校 168学級

学校名	学級数
大住小学校	13
田辺小学校	24
草内小学校	14
三山木小学校	23
普賢寺小学校	7
田辺東小学校	11
松井ヶ丘小学校	27
薪小学校	24
桃園小学校	25

中学校:3校 55学級

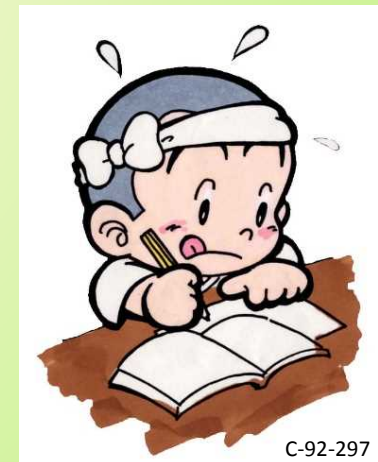
学校名	学級数
田辺中学校	22
大住中学校	21
培良中学校	12





学校教育においては、知・徳・体の調和のとれた発達を図り、勤労と責任を重んじ、基本的人権を尊重し、国際感覚を身に付けた児童生徒の育成に努め、生涯にわたる学習の基盤を培うことを目標とする。また、各学校・園は、学習指導要領・幼稚園教育要領等の趣旨・内容に沿い、教育課題を明確にし、校種間の緊密な連携を進めるとともに、家庭・地域社会・関係諸機関等との連携、協働により、子ども一人一人を大切にした教育を一層推進する。そのことから、学力充実や学習環境の整備、基本的人権の確保などに努め、将来の京田辺市を担いたくましく生きる子どもの育成に向け、研究、実践を行う。

(平成28年度京田辺市教育の方針より抜粋)



「教員の育成」

子ども・学校応援プロジェクト

先進
県視
察研
修

平成25年10月

秋田県学力向上フォーラム 大仙市教育委員会

3名派遣

(小学校2名 中学校1名)

平成26年10月

福井県教育フォーラム

5名派遣

(小学校2名 中学校3名)

平成26年11月

秋田県学力向上フォーラム 秋田市立御所野小学校

8名派遣

(小学校5名 中学校3名)

平成27年11月

大仙市立大曲中学校 大仙市立太田東小学校

5名派遣

(小学校3名 中学校2名)

『子ども・学校応援プロジェクト
「教育実践モデル校」指定事業』実践交流会
年1回実施 市内教職員全員参加





平成27年度

子ども・学校応援プロジェクト

京田辺
市教育
委員会

先進県視察報告 ～秋田県 大仙市～



大仙市へ

京田辺市の子ども達につけたい力

京田辺市学力向上対策ワーキング会議において、「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果を分析した結果、小学校では国語・算数ともに平成26年度に引き続いて全国・府平均を上回っており、中学校においても国語は平均正答率を全国平均レベルで維持し、数学では全国平均を上回る学力状況を示しています。子ども達の学力向上に向けた学校全体としての取組や先生方の授業改善等が行われた上での結果であることは間違いありません。

さらに目指すべきは、子ども達の確実な進路保障を担う確かな学力の充実です。そのためには、京田辺市全体で進むべきベクトルを定めて、一丸となって次のことに取り組んでいくことが求められます。

1. 『各教科等での言語活動の充実』

考えること、まとめること、説明することが得意な子ども達

市全体としては高い学力状況ではありますが、国語B・算数B・数学Bにおいて、自分の考えを文章化したりどのように考えたのか説明したりする力に課題があります。「自らの考えをまとめて書くこと、根拠を読み取ったり説明したりすること」や「字数制限のある記述」「教科の用語・語句を使った説明」など、考えを書く力、説明する力を伸ばすことが求められます。

2. 『協働的な学習』や『探求的な学習』の充実』

自主的・主体的に学習する子ども達

総合的な学習の時間をはじめ、教科・領域の指導計画の教育課程を見直し、協働的・探求的な学習の充実を図ることが求められます。学習課題の検討をはじめ、課題解決の方法や資料収集の段階から子ども達が自主的・主体的に取り組めるように単元計画も工夫し、子ども達自らが学習課題を設定して協働的に課題解決に取り組む授業展開を取り入れるなど、授業の工夫改善を行うことが求められます。

3. 『家庭学習の習慣化への取組の工夫』

習慣として、家庭学習に取り組む子ども達

家庭学習は、学力との強い相関関係があります。宿題をきっちりとこなすことに加えて、自主的に教科の予習・復習を行えるように、自主学習の進め方について指導を行わなければなりません。

また、家庭・地域との連携を生かした取組として進めていくことで、京田辺市全体で家庭学習の習慣化を図っていくことが求められます。



「教育実践モデル校」

子ども・学校応援プロジェクト

全ての小中学校をモデル校として指定



英語教育（小中連携）

田辺小学校

田辺中学校

学力アップ

三山木小学校

普賢寺小学校 桃園小学校

学力アップ校（小中連携）

草内小学校 田辺東小学校

培良中学校

体力アップ

薪小学校

安全(防災)教育チャレンジ

松井ヶ丘小学校

大住中学校

読書活動推進

大住小学校



京田辺市は、校務支援システムを導入し、
子どもたちの成長記録の蓄積・共有により、きめ細やかな指導の実現を目指しています。

蓄積・共有のメリット

- 子ども一人ひとりのより詳細な成長記録が蓄積、共有可能になります。
- 進級・進学などで担任・教科担当が変わっても、子どもの成長の軌跡がスピーディーかつ詳しく把握できるようになります。
- 子どもの“気づき”や“つまずき”を過去にさかのぼって確認ができ、個に応じた指導が可能になります。





小中学校9年間の子どもの情報

(学籍情報・学習成績・家庭情報・保健情報・体力情報)

を一元管理し、指導に役立てるとともに、
児童・生徒の学力向上につなげる。

セキュリティ
強化

学校間・教職員
間の連携強化

業務の
平準化

1. 蓄積されたデータを教職員間で共有・活用し、きめの細かい指導に役立てる。
2. 校務支援システムを導入し、業務手順の統一化とペーパーレス化を実現する。
3. 情報を一元管理することで、個人情報保護・セキュリティを強化する。
4. 業務内容・手順を見直すことで校務処理を効率化し、授業準備時間、子どもと向き合う時間をより多く確保する。



目標

子どもたちの成長の記録の蓄積・共有により、きめ細やかな指導の実現を目指す
教職員の校務の平準化、効率化を図る

システムの開発

- ・操作方法の簡略化
- ・マニュアルの作成
- ・現地調査
- ・様々な角度から検証

プロジェクト会議(準備・推進)

- ・年間6回の開催
- ・アドバイザーによる助言
- ・先進地視察研修
- ・検討 協議 開発

各校での運用

- ・校務としての利用
- ・システム管理者の任命
- ・様々な角度から検証
- ・感想や意見

児童生徒基本情報のデータベース化 データ共有によるきめ細やかな指導
小中同一システムによる連携強化 サーバー一元管理によるセキュリティーの強化



平成27年度プロジェクト会議

- | | |
|-----------------|----------------|
| 校長会代表 1名 | } 各校・各会議と連携 |
| 教頭会代表 1名 | |
| 教務主任会 (小) 2名 | |
| (中) 1名 | |
| 情報教育コーディネイター 1名 | } 事務職員部、養護部と連携 |
| 指導主事 1名 | |
| アドバイザー 2名 | |

事務部・養護部との連携・・・一人職、独自の業務内容

(養護部との連携事例)

- ・保健室来室記録様式、記入方法の検討
- ・校務支援システム内データの成長曲線への活用 等